

## “Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

## No.42 (ヒューマンパフォーマンスツール ⑩) 参考

## 【トラブル事例】

天井クレーンによる運搬作業を実施するにあたり、ハッチを囲うように単管足場で手すりを設置していたところ、作業員はクランプ(緊結金具)の個数が足りずに緊結できない箇所が1箇所あったため、作業責任者に指示を仰いだ。作業責任者が手順書を確認したところ、手すりの安定性を高めるためにクランプによる緊結が要求されていたが、これまでの経験から番線による緊結でも問題はないと考え、番線による緊結を指示した。

その後、ハッチを開放して荷物の運搬作業を実施していたが、作業員は番線で緊結した単管パイプに寄りかかりながら下の階の作業状況を確認したとき、荷重がかかることで番線による緊結が緩み単管パイプが滑って外れてしまった。これにより、単管パイプの固定はクランプで緊結したもう一方の端部のみとなり、そこに荷重がかかったことによりクランプが破損してしまった。その結果、作業員は体制を崩して単管パイプもろとも開口部から墜落してしまった。

## 【ヒューマンパフォーマンスツールの活用】

ツール名: “手順書の使用と遵守”

## ➤ 何のため？

- 手順書の意図や目的を理解した上、手順書のとおり作業を行うことでトラブルの発生を防止するため

## ➤ いつ使う？

- 手順書に基づく作業(操作、点検、監視、分析 等)を行うとき

## ➤ どう使う？

- 使用する手順書があるか、手順書が最新版であるか確認する
- 作業を開始する前に手順書をレビューし、意図や目的を理解する
- 手順書が、環境、時期、設備や機器に対して適切であるか検証する
- 影響を認識したうえで、手順書に従い確実に作業を行う
- 以下の場合には直ちに作業を中断し、監督者に報告する  
監督者は手順をレビューし、手順書の変更、作業の中止・復旧などを決定する
  - ① 手順書が見当たらない
  - ② 手順のとおり作業ができない(手順の変更を求められた場合を含む)
  - ③ 手順のとおり作業を行うとトラブルが発生するリスクがある
  - ④ 手順書が技術的に正しくない
  - ⑤ 手順書が別の手順書と矛盾する
- 手順書に改善すべき点があれば報告し、再度利用するまでに確実に見直す

**手順書に従った安全かつ正確な作業ができない場合は中断し、修正してから再開しましょう！**

※ ヒューマンパフォーマンスツールは、起こりうるエラーを予測し、感知することで、エラーや事故を防止しやすくするためのものです。このポスターは、事例を参考に安全啓発資料として編集・作成しました。